書　評

小川朝生　著

あなたの患者さん，認知症かもしれません

急性期・一般病院におけるアセスメントから BPSD・せん妄の予防，意思決定・退院支援まで

渡邉眞理（神奈川県立保健福祉大学）

日本は超高齢社会を迎えようとしており，医療の現場では既にその波が押し寄せ，高齢患者が急増しています．医療の現場では平均在院日数が短縮する中，時間に追われながら入院患者の対応をしているのが現状です．そのような状況で本書の『あなたの患者さん，認知症かもしれません』というタイトルは，とても気になりました．

一般病院に入院中の 2〜6 割の患者に認知症が疑われます（本書 p.9 より）．患者の入院生活を通じて「なにか変？」という違和感を抱きながらも高齢者だから……と認知症を見過ごすことも多くあると思います．

本書は急性期・一般病院での認知症のアセスメント，BPSD（行動・心理症状），せん妄の予防，意思決定・退院指導まで丁寧にわかりやすく紹介されています．例の一つに認知症を知るための 3 つの段階が記載されています．この 3 つの中でも複数の認知機能障害を理解することで認知症（かもしれない）の患者が体験している症状を理解することができます．あわせて認知症（かもしれない）患者にかかわる際のポイントなど多くの示唆を得ることができ，患者・家族の苦痛を軽減できるヒントがたくさん詰まっています．

本書を通じて，一人ひとりの患者の権利を尊重し，個別的なケアをするという基本について考える機会となりました．それは特に意思決定支援や認知症の告知の方法について記されている章でした（11 章，14 章）．また，タイトルと同様に語りかけるような文章であること，ポイントが要所に記されており，とても読みやすくわかりやすいのも本書の特徴です．

今後さらに増加する認知症患者に適切な医療が提供できるように，急性期・一般病院に勤務する医療関係者のみならず，多くの医療機関の，看護職や医療スタッフに活用していただきたい 1 冊です．

（A5 判　頁 192　2017 年　定価：本体 3,500 円＋税［ISBN978-4-260-02852-3］　医学書院刊）

©IGAKU-SHOIN Ltd, 2018

2026/09/26 00:56:44